

一般社団法人日本鉱物科学会
2018年度第2回定例理事会 議事録

- 【1】招集通知年月日：2019年5月7日(火)
【2】開催年月日及び時刻：2019年5月25日(土)
16時15分～19時00分
【3】開催場所：東京大学理学部1号館西棟1階105室
〒113-8654 文京区本郷7-3-1
【4】理事総数および定足数：総数 22名 定足数 12名

【5】出席理事数：21名

榎並正樹, 宮脇律郎, 安東淳一, 阿部なつ江, 井上 徹
(ZOOM) (ZOOM)
大藤弘明, 大和田正明, 鍵 裕之, 川本竜彦, 河上哲生,
黒澤正紀, 辻森 樹 富岡尚敬, 中村美千彦, 永井隆哉,
(ZOOM) (ZOOM)
永島真理子, 長瀬敏郎, 伴 雅雄, 森下知晃, 塚本尚義,
(ZOOM) (ZOOM) (ZOOM)
吉朝 朗

【6】欠席理事数：1名 土屋範芳

【7】出席監事：平島崇男

【8】オブザーバー：(幹事, 各委員長, 報告者)

出席：栗林貴弘会計幹事
磯部博志行事幹事
佐藤 努特務幹事
林 信太郎教育普及委員会委員長
門馬綱一応用鉱物科学賞選考委員会委員長
大谷栄治IMA小委員会委員長,
小山内康人2019LOC委員長, 池田剛2019LOC委員
下林典正渡邊萬次郎賞選考委員会委員長
奥村 聡研究奨励賞選考委員会委員長 (ZOOM)
越後拓也研究発表優秀賞選考委員会委員長

欠席：興野 純Elements幹事
齊藤 哲JpGU2019プログラム委員
坂野靖行博物館委員会委員長
松原 聡櫻井賞選考委員会委員長

【9】議事概要

定足数12名を超える21名の理事が出席し, 定款30条により理事会が成立したことを確認した。

榎並会長が議長に選出された後, 榎並議長は一部参加者がWEB会議システム(ZOOM Meeting)を利用することから, WEB会議システムの通信状況, 出席者全員の音声と映像が即時に伝わり, 適時的確な意見表明が互いにできる状況, に問題がないことを確認し, 2018年度第2回定例理事会を開始した。

まず初めに, 会議に先立ち, 榎並会長より書記として森下理事が推薦され, 満場一致で承認された。

1. 報告事項

1. 会長・副会長の職務執行報告 (榎並会長, 宮脇副会長)

各業務は各担当者に一任していることから, 会長, 副会長から個別の報告は特にないので, 以下の順に沿って, 各担当者から報告を行った。

2. 会員報告 (河上会員幹事・理事)

河上会員幹事により以下の通り, 2018年度第1回定例理事会(2018年9月20日)以降の会員動向の報告がなされた。物故会員3名(名誉会員1名, 永年会員1名, シニア会員1名), 退会者14名(内訳: 永年会員1名, シニア会員3名, 一般会員3名, 学生会員7名)であった。また, 退会意思不明者2名と連絡先不明の2名については関係理事から連絡してもらったことになった。2019年5月25日現在の会員数総数は872名(内訳一般会員558名, シニア会員183名, 学生会員79名, 永年会員37名, 名誉会員15名)で2018年9月20日の定時総会後より24名減少となった。

3. 広報報告 (大藤広報幹事・理事)

大藤広報幹事により, 広報活動について以下の通り報告がなされた。(1) 広報委員会委員の主な役割の分担: HPの更新作業の対応: 糺谷浩委員(を中心に委員全員で対応) JpGUブース展示: 齊藤哲委員(および学会参加の委員で対応), Twitterの管理運営: 石橋秀巳委員, Facebookの管理運営: 浜田麻希委員, その他諸々の対応: 大藤委員長。(2) 会員へのML送信を実施した(2019年は現在までに5件)。内容は, 学会事務連絡, 公募案内, 関連学会案内など。(3) FacebookとTwitterリンクと学会HPのシンクロ, 随時更新強化。(4) 連合大会の日本鉱物科学会ブース展示対応は以下の通り。なお, 事務員不在の時間帯を委員交代で担当。1. 学会誌GKK, JMPSの紹介と配布, 年会, 表彰, 入会案内, 2. 学会会員執筆書籍の展示・紹介, 3. 学会員に配布されている“Elements”の紹介と配布, 4. 「一家に1枚: 鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスターの紹介と配布, 5. 寄贈試料の展示, 6. ポスター刷新, 7. 偏光顕微鏡で薄片観察紹介。7. 広報委員会として高校生向けに無料のショートセミナー「偏光顕微鏡で覗く岩石薄片の世界」を実施(機材は愛媛大学提供)チラシ作成, FacebookとTwitter 学会HPにお知らせを掲載。8. ジョイテックさんからミャンマー産の研究用ひすいとスピネルの寄贈があり, 一部を今回のショートセミナーの景品に使用。9. 地学オリンピックでの「一家に1枚: 鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスター配布。(5) 奥山康子会員から上記ポスターA2判1,000枚(推定20万円)の寄贈申し出があり, まず300枚寄贈いただいた。残りは掲載内容の修正を行ってから寄贈いただく予定。

4. 渉外報告 (森下渉外幹事・理事)

森下渉外幹事により, 渉外活動について以下の通り報告がなされた。昨年まで31冊ご寄贈いただいているが, 著者が退会した為1冊展示取り下げとなった。一方, 今年の2019JpGUには, 4冊の寄贈があり合計34冊となった。

5. 和文誌編集報告 (長瀬和文誌幹事・理事)

長瀬和文誌幹事により, GKKの編集状況について以下の通り報告がなされた。

1) 2019年5月24日現在まで, 岩石鉱物科学47巻3号, 4号, 48巻1号の合計3号が発行された。掲載件数頁数は原著論文2件38p, 総説4件29p, 資料・解説3件18p, 新刊紹介2件1.5p, ニュース(他学会案内, 公募等)0.5p, 投稿規定9p, 学会記事(理事会・総会議事録)40p, 追悼文1p, 総目次3p, 広告3件3p, 白頁3p, 3号分合計頁146p, 1号平均頁48p。2) 発行状況: 48巻2号(2019年6月3日発行予定) 受賞紹介2編; 48巻3号(9月末発行予定) 原著論文1編, 資料1編, 3) 現在査読中論文: 1編。

6. 英文誌編集報告 (吉朝英文誌幹事・理事)

吉朝英文誌幹事により, JMPSの編集状況について以下の通り報告がなされた。

2019年5月25日(土)13:00～13:45に東京大学理学部1号館西棟1階

105室にて2019年第1回JMPS編集委員会を開催したことが報告された。

1. 報告事項：1) JMPS状況報告：113巻3号(6月)～114巻2号(4月) 計6号が発行された。掲載件数頁数は後記の通り。Review 0件0p, Articles 25件260p, Letters 7件37p, Technical 1件11p, Editorial 0p, 投稿規程 5p, Index 5p, Contents 5p, 白頁3p, 6号分合計頁326p, 1号平均頁54p 2) 今後の発行予定：114巻3号(6月号)(印刷済5編)現在の編集状況：査読中：9編, 返却中：13編。3) 2017 JMPS Impact Factorは1.030となり2016の0.409よりアップした。4) 2019連合大会講演を対象にLetterを募集中：投稿申込締切日：2019年6月14日(月) 締切日厳守, 原稿提出締切日：2019年7月31日(水) 締切日厳守:Letter企画の対応再確認 5) JpGU 講演発表はもとより, 年会発表講演Letter投稿も激減していること, IFの年々の引用減, 投稿システム最低年間50編の投稿必要とことから, 理事会出席者へ投稿のお願いをした。6) 2019年2月25日から3月7日まで, メールでご審議いただきました特集号提案について結果報告。The tentative title: Tracking plate tectonics and related events in the Indian continent from Archean to recent times. Guest editors: Kaushik Das, Jun-ichi Ando. 10名回答：賛成8票 反対2票。結果：特段連絡がない場合は賛成とすることでご了承いただいていたので, この特集号を進めることを, 承認することになった。但し, コメントや意見に対して, 前向きな努力をお願いする。7) 特集号進捗情報報告: 提案特集号の上記承認結果(2019.3.15のメール審議JMPS編集委員会)を受けて, ゲストエディターの広島大学ダス先生と安東先生に本特集号について進めていただいている。もともと提案された著者に加えて, 日本人の著者数人を加えて, 現在10件ほどの論文集になる方向で進んでいるとの事。2019年度中にまとめられるようなスケジュールを組んでいるとの事。(代理報告：井上 徹)
2. 審議事項：1) JMPS学生論文賞審査結果報告は以下の通りで, 後記の本理事会で審議される。第7回対象論文：Formation of Fe(III)-oxides on the magnetite surfaces in the low-temperature hydrothermal reaction. 学生会員筆頭著者：田村知也。第8回対象論文：Pressure-temperature-time path of a metapelite from Mefjell, Sor Rondane Mountains, East Antarctica. 学生会員筆頭著者：坪川祐美子。2) JMPS学生論文賞選考方法の件で選考委員のコメントが紹介された。3) ページチャージ割引率30%を15-20%へ減額する継続審議。4) 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする継続審議カラーのみ電子付録は中止にして, 電子ジャーナルPDF論文のみをカラー印刷にする選択の有無と, その著者費用については継続審議。

7. 庶務報告(中村庶務幹事・理事)

中村庶務幹事により, 2018年度第1回定例理事会(2018年9月20日)以降の庶務業務について以下の様に報告がなされた。1) 平成29年度定例総会開催, 総会招集通知資料発送, 総会議事録作成確認。2) 第1回, 第2回理事会開催関連, 会場準備, WEB会議準備, 各議事録作成確認 3) 一般社団法人変更届の対応。4) 連合への対応。5) 後援, 共催, 協賛。6) 会員への連絡, 学会誌発送。7) 平成31年度日本学術振興会賞, 育志賞受賞候補者募集のアナウンスその他。

8. 行事・年会報告(磯部行事幹事, 池田2019年LOC委員長代理)

磯部行事幹事と池田2019年LOC委員長代理により以下の通り報告がなされた。

1. 日本地球惑星科学連合2019年大会：日程：2019年5月25日(日)～5月30日(木) 会場：幕張メッセ国際会議場
2. 日本鉱物科学会2019年年会・総会：日程：2019年9月20日(金)～22日(日) 会場：九州大学伊都キャンパス イーストゾーン(イースト1号館)〒819-0395 福岡市西区元岡744
年会案内を年会HP公開中。

(1) 例年とは異なる予定として：

9月23日(月)～9月24日(火)阿蘇・九重地域の火山と地熱帯：高千穂, 阿蘇, 鯛生金山 9月23日(月)9:00～12:00九州大学「高標本」と工学部「列品室」見学会：旧箱崎キャンパス
9月23日(月)3:00～九州大学西新プラザ(福岡市西区西新)日本鉱物科学会一般普及講演「日本の国石・ひすい」

(2) 参加登録費について：

昨年までの講演申込システムとプログラム編成講演要旨公開システムは別会社を利用していた。費用は97,200+399,600=合計約50万円。しかし値段の割に動きが重いデザインもいまひとつである。また, J-Stageで公開する別のファイルを作成しなければならないので別途費用が5万円掛かる。以上から, 講演申込システムの会社のプログラム編成講演要旨公開システムも一貫して利用することについて, 行事委員会とLOCとで協議した。費用は60万円から講演数により65万円になる。「参加登録料及び懇親会費の金額は現地運営委員会が決定する。」とガイドラインにあるが, 行事委員会と協議して差額は参加者に負担していただくことにして以下の様に値上げをすることにした。

事前料金：一般会員7,000円(1,000円値上げ) 学生会員3,500円(500円値上げ) 非会員(一般)11,000円(1,000円値上げ) 非会員(学生)5,500円(500円値上げ)。

当日料金：一般会員8,000円(1,000円値上げ) 学生会員4,000円 非会員(一般)8,000円(1,000円値上げ) 非会員(学生)4,500円。

(3) 演申込み期間：2019年6月24日(月)10:00～7月16日(火)20:00まで(WEBサイト利用)

9. Elements報告(興野Elements幹事報告代理：森下副委員長)

森下Elements副委員長により, Elements 2019年掲載原稿について以下の通り報告がなされた。以下の記事をJAMS Society Newsとして編集し, Elementsに投稿した。JAMSは1年間に6号で毎号1頁を目安に記事を作成している。なお, 誌面に余裕があるので, 取り上げたい内容があればElements委員長まで連絡してほしい。既に6月号までの下記の原稿をElementsに入稿。現在8月号のトピックス記事を依頼中。10月, 12月号は学会賞の紹介記事を掲載予定。2019, No. 1, 2月号(原稿締切:2018/11/23): 榎並会長 From President, Invitation to the JpGU Meeting 2019, JMPS Contents Vol. 113, no. 6, December 2018. 2019, No. 2, 4月号(原稿締切:2019/1/25): Aquaplanetology -A project that quests for planetary habitability in the Solar System and beyond(東工大・関根会員), 国際結晶成長会議報告(東北大・中村会員), JMPS Contents Vol.114, no.1, February 2019. 2019, No. 3, 6月号(原稿締切:2019/3/29): Asian continent; the origin, formation, and growth 九大・中野会員), JMPS Contents Vol.114, no. 2, April 2019. 2019, No. 4, 8月号(原稿締切:2019/5/24): トピックス「地球科学におけるデータ駆動型解析の最新研究」(JAMSTEC・桑谷氏), JMPS Contents Vol.114, no. 3, June 2019. 2019, No. 5, 10月号(原稿締切:2019/7/26): 学会賞, 渡邊萬次郎賞, 櫻井賞の紹介, JMPS Contents Vol.114, no.4, August 2019. 2019, No. 6, 12月号(原稿締切:2019/9/27): 研究奨励賞, 応用鉱物科学賞, 論文賞の紹介, JMPS Contents Vol. 114, no. 5, October 2019.

10. 2018年度会計中間報告(栗林会計幹事)

栗林会計幹事により, 日本鉱物科学会2018年度会計収支中間報告(2018年8月1日～2019年5月22日)について, 収支表が提示され説明がなされた。ほぼ例年通りの推移であること, 会費請求通知しているにもかかわらず, 学会費の納入が遅れているのも例年通りであることが報告された。

11. 2018年年会会計決算報告(栗林会計幹事)

栗林会計幹事により, 2018年年会(山形大学)会計決算について決算表が提示され説明がなされた。山形大学LOCのご尽力により

たくさんの方々にご参加いただき、また山形市より15万円の助成金を得ることができ、お陰様で黒字となったことが報告された。なお、法人化後は年会会計決算も7月の決算に合算され8月に監査を受け、総会の承認を受けることになるので、今回は報告のみとする。

12. 将来企画委員会報告（宮脇委員長・理事）

宮脇将来企画委員長により、2019年5月25日13:45～14:35に東京大学理学部1号館西棟1階105室にて将来企画委員会が開催されたことが報告され、継続審議となっていた諮問も含め以下の諮問についての答申が報告された。

(1) 会計問題WG（仮称）委員の選任（継続審議）

2018年9月3日平成29年度第3回定例理事会で小山内前監事から監査の結果監事意見があり、会費の問題に関するWGを将来企画委員会を中心に2018年度中に立ち上げることが承認され、2018年9月20日2018年度第1回定例理事会にて委員長は井上徹（理事）に決定した。今回、当委員会が宮脇、鍵、大藤、永島が会計問題WG委員として選任された。

(2) 科研費審査制度の大幅変更に関して（継続審議）

制度変更にとまないと、旧区分ガ鉱系の採択率が大きく変化してはならないかとの情報もあり、影響と対策を議論するための基礎となる情報（採択率が上がった、下がったなどを含め、些細なことでも結構）、科研費の審査制度の大幅変更に対応してどのような影響があったかデータ収集を行なう事が報告された。しかし、当理事会において、意見が多々あり、詳細は審議事項の「その他」で審議される。

(3) 会員数増のための学会としての対応は継続審議となった。

13. 特務幹事（細則等検討担当）報告（大和田特務幹事・理事）

大和田細則等検討担当により、以下の答申が報告された。

定年を迎えた理事（会長、副会長を含む）や監事の理事会等への出席に対する交通費の支給に対する諮問について、以下の答申が報告された。

答申：理事に選ばれた場合、その責務果たすように各自が努力し、どうしても旅費等の工面が必要な時は、学会として個別に対応する。

審議の経緯：学会の予算に関連することなので、現状を考慮すると旅費等を無制限に支給することは難しい。また、会長を含む理事の被選挙人に対して年齢制限を設けることも理事会では否定的な意見であった。したがって、定年を迎えた理事への交通費の支給に関しては、ケースバイケースで対応する。

上記答申について、審議事項第4号議案で審議することとなった。

14. 特務幹事（会員増対策担当）、会員区分等検討WG報告

佐藤努（会員増対策担当）、会員区分等検討WG委員長

会員区分等検討WG委員長でもある佐藤特務幹事（会員増対策担当）により以下の活動報告がなされた。

- (1) 昨年2018年9月20日より吉朝委員長の後任として佐藤特務幹事（会員増対策担当）が委員長就任したこと。
- (2) 昨年度は、短期の会員数減の応急措置として、以下の事が理事会で承認された、「会員会費規定」（年会費）第5条第2項の改正—シニア会員のElements購読の有無によって、会費を分ける件—シニア会員は、申し出によって、本規定第3条（1）の会誌等に含まれているElements冊子体の受領およびその電子ジャーナルアクセス権の付与を辞退することができる。
- (3) 本年度は、長期の会員数増あるいは会員数維持のための方策を考え、理事会に提案する。まずは、会員へのアンケートを実施し、現会員の意向をもとに会員数増あるいは会員数維持のための方策を提案する。

- (4) 会員区分等検討WGの意見は次の通り。・中堅会員に対して、関連学会との共通あるいは深く係るのテーマのシンポジウム等を頻繁に行い、会員増を図る。・若手会員に対して、学生会員の卒業後の定着に向けて、学生会員並みの会費で、アカデミアではなく情報収集を中心とし、サービスを落とす準会員等の会員制度も考えられる。・高校教員や高校生、鉱物や岩石のマニアの積極的な参加を図る。会費の配慮が必要。・Elements配布の差別化を図り、会費の低減を模索する。

- (5) 以上を踏まえ、アンケートを当学会のFormを利用したwebアンケートとして実施したい。委員長のアンケート案が紹介された。なお、このアンケート案は、アカデミックな学会として会員を増やすための方策であることをご理解いただききたい。その他の担当からのアンケート項目の要望があれば受け付け、合わせて実施したいので、意見があれば寄せてほしい

15. 地惑連合報告（阿部JpGU連絡担当委員・理事）

阿部JpGU地惑連合連絡担当委員により2ヶ月に1度のJpGU理事会（直近は2019年5月10日）についての報告がなされた。(1) PEPS + EPS出版：共同で提案し、出版科研費が採択された。(2) 寄付金(3000円)のお願い。5年間平均100人/年を続けられ、税の減免対象となるため。(3) 国際対応 (ア) 今後の大会のあり方、英語セッション数(国際化を進める)50%以上を目指す。(イ) 台湾とのMOUについて中国(現在の海外からの大会参加者数でトップ)との関係などを考慮しつつ進める。(ウ) 海外からJpGU大会へ参加かつ入国ビザが必要な人に対し、学会がサポートしているが、不正な申請が数多く見られることから、今後対策を検討。

(4) GeoethicsについてTFで議論。AGU-EGU-JpGU共同宣言（科学者としての行動規範等）を2020大会に向けて作成していく。研究不正、ハラスメント、ジェンダーバランスなど、国際化(AGU-EGU)を進める前に力を入れて取り組んでいく。(5) キャリアパス：博士取得後のポスト数減少対策(約1/2しかポストがない)。(6) JpGU2019大会関連 (ア) 入場レジストレーションには大会参加バーコードが必要。当日受付は基本的に行わない。各自のPC等から参加登録することになる（JpGU会員ID番号を入力、情報セキュリティ上、大会側はIDを検索できない）。(イ) 大会中の災害発生等、「緊急時対応マニュアル」を作成：代議員150名にメールで配布とともに、大会受付、セッション会場に印刷物を常備。大会Web上に、緊急連絡先と避難経路図を掲載予定。重要な点は、緊急時避難経路が、「火災発生時」と「その他（地震・津波など）」で別であること。火災発生時は、会場の主な通路の防火扉が閉まるため、避難経路が小さなドアなどに限られる。コンピーナーや座長は必ず避難経路を確認していただきたい。

16. IMA小委員会・学術会議報告（大谷学術会議連携会員）

大谷学術会議連携会員により以下の通り報告がなされた。

2019年5月25日(土)14:35-15:25に東大理学部1号館西棟1階105号室で開催されたIMA小委員会について。

議事：1. IMA Council、各コミッションとWGの現状（WGの再構築の現状）と今後の対応について。日本からも理事を出した方がよい。Councilのメンバーとして、大藤教授（GRC）を推薦した。SecretaryのHans-Peter Scherflに連絡。CGMのメンバーの交代：宮田博士から阿以アヒマテイ博士への変更をIMA構成学会の代表者榎並会長と連名でCGMの委員長に連絡。IMAの総会：Lyon France, 2022. CMMN(命名・記載コミッション) 新体制については宮脇委員長から報告があった。CPM:コミッションについては井上副委員長から報告があった。CMは坂野靖行院長により報告があった。IMA2018メルボルン大会期間中に開催されたIMA博物館委員会（IMA-CM）に長瀬委員が参加した。投票により新委員長(Dr Mike Rumsey)選出及びM&M9開催国（ブルガリア）の承認が行われた。2019年4月にIMA-CMより連絡があり、今後はメールを用いた情報共有を進める方針が示された。連絡内容の概要は

以下の通りです。*IMA-CMのwebsite (www.ima-cm.com) が刷新された。*M&M9 conferenceはBulgaria, Sofiaで2020.7.5~7.7に開催される。*年4回(4月,7月,10月,1月)IMA-CM mail updateがCM memberに送信される。*多くのCM memberが遠方への会議に出席することが困難である状況を考慮し) 今後はregular mail contact and discussionにより重点を置く。*Type catalogue (CTMS) が2018年11月にre-organizeされ, CM web siteに掲載された。今後はCNMNCの協力によりtype specimen情報がCM側に提供され, type catalogueのupdateがregular basisで可能になる。*今後のM&Mの開催方針案“The board have been discussing that in all future years where M&M conference is in Europe for it to be held the week prior to the EMC conference, thereby allowing maximum opportunity to have good numbers at the M&M conferences and quorum at just a single IMA-CM meeting.”が述べられ, CMの多くのメンバーが参加できるようにするためには, 今後のM&Mはヨーロッパで開催 (the EMC conferenceの前週で開催) される案が議論されていることが紹介された。2. 24期学術会議の活動・大型研究課題の審査: 3. 地球科学における大型研究の現状とヒヤリングについて・大型研究の大規模改訂(2020年度)のヒヤリング・参加者審査が5/27, 9:00-17:00に行われる。皆さんの参加をお願いします。・鉱物科学に関連する大型研究課題の現状の紹介(入舩教授・鍵教授)。4. 鉱物科学における人材育成: 西山委員(教科書): 新しい地球惑星科学 西山・吉田共編著 培風館219年3月。5. その他: 地球科学における不正問題: 研究倫理(京都大学の対応)

17. 三鉱連絡会報告(中村庶務幹事・理事)

特になし。

18. 各委員会委員選出報告(中村庶務幹事・理事)

中村庶務幹事により, 2018年度各委員会, 各賞選考委員の投票結果について以下の通り報告がなされた。(選挙実施経緯) 理事による下記委員の選挙を2018年10月以降実施することを2018年度第1回定例理事会(2018年9月20日)にて承認を受け, 2018年11月30日(木)締切で実施した。理事22名全員により投票があった。

1) 日本鉱物科学会賞選考委員会委員

(新) 任期1年: 井上 徹, 大藤弘明, 大和田正明(委員長), 鍵 裕之, 川本竜彦, 小暮敏博, 佐藤 努, 中村美千彦, 平島崇男, 宮脇律郎
(会長) 榎並正樹

2) 渡邊萬次郎賞選考委員会委員

(新) 任期2年委員4名選出: 小暮敏博, 土山 明, 長瀬敏郎, 吉朝 朗

継続委員4名: 大和田正明, 下林典正(委員長), 平島崇男, 宮脇律郎

3) 日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員

(新) 任期2年委員5名選出: 安東淳一, 井上 徹, 永島真理子, 森下知晃, 吉朝 朗

継続委員5名: 榎並正樹, 河上哲生(委員長), 川本竜彦, 高澤栄一, 三河内岳

4) 日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会委員

(新) 任期2年委員5名選出: 阿部なつ江, 安東淳一, 黒澤正紀, 富岡尚敬, 永島真理子

継続委員5名: 大藤弘明, 奥村 聡(委員長), 河上哲生, 森下知晃, 門馬綱一

5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会委員

(新) 任期2年委員5名選出: 大藤弘明, 鍵 裕之, 黒澤正紀, 杉山和正, 永井隆哉

継続委員5名: 佐藤 努, 長瀬敏郎, 宮脇律郎,

門馬綱一(委員長), 吉朝 朗

6) 将来企画委員会委員

阿部なつ江, 井上 徹, 大藤弘明, 鍵 裕之, 黒澤正紀, 永井隆哉, 永島真理子, 中村美千彦, 森下知晃, 宮脇律郎副会長(委員長)

7) 細則等検討委員会委員(構成委員5名)(選出4名, 任期2年)

永井隆哉, 角替敏昭, 川本竜彦, 黒澤正紀, 大和田正明特務幹事(委員長)

19. 新鉱物・命名・分類委員会報告(門馬委員長)

特に報告はなし。

20. 教育普及委員会報告(林信太郎委員長)

林委員長により教育普及委員会の今後の活動について以下のよう報告がなされた。

1) 教育普及委員会が中心になって行うアウトリーチ

教育普及委員会の目的の一つである, 子ども向けのアウトリーチの活動を進める。・アウトリーチ活動を行い, 子どもに対する鉱物科学およびその関連分野の成果の普及を行う。SSH(スーパーサイエンスハイスクール)などの高大連携などを活用する。・アウトリーチの実践を通じてアウトリーチの方法に関する知見を得て, 鉱物科学会会員に普及する。・2019年度は委員が鉱物科学会会員として試行的なアウトリーチ活動を行い, その成果を取りまとめる。・2020年度は秋の年會に合わせて子ども向けのアウトリーチ活動を行う。行事委員会の主催する講演会とリンクさせる。2019年9月の総会で予算を申請する。行事委員会との調整を行う。(チラシ印刷費, ポスター印刷費, おみやげ代など)・その成果をもとに科学研究費の公開講座に応募し, 翌年度からは本格的なアウトリーチの実践活動を行う。・子ども向けアウトリーチ活動の内容は「鉱物と遊ぼう!」(岩塩割り, 砂鉄集め, 黒雲母剥がしなど)「鉱物お宝鑑定団」, 「鉱物クイズ」, 子ども向け講演会「はやぶさ2で何がわかるの?」などがある。一般普及講演会と子供向けイベントをセットで科研費の公開講座を申し込む。・この他に科学の祭典などへの出店も考える。7月27日28日に偵察し, どのような準備が必要か考える。

2) 教育普及委員会の下にワーキンググループを置き, 教育普及に関わる関係者を組織化する。現在の委員会体制は委員長: 林信太郎, 委員: 貴治康夫, 宮嶋 敏, 川手新一, 長瀬敏郎と規定で委員の数は5名と定められている。・現委員会の下にアウトリーチに関するワーキンググループを設置し, 以下のような鉱物科学会のメンバーを組織化する。学校教員, ジオパークの専門員・ガイド, 博物館関係者など。鉱物に詳しい人, 子ども向けに話すのが得意な方, 若手を歓迎

3) アウトリーチ活動にあたっての学会からの支援

・数年前の科学技術週間で作成した一家に一枚の鉱物のポスター(残部はあるのかどうか調査, 場合によっては増刷)・鉱物や岩石の図柄のクリアファイル・おみやげの鉱物(ガーネット入りの砂など)〈参考〉教育普及委員会内規の本委員会の目的
「2. 教育普及委員会は, 初等中等教育や大学基礎教育における鉱物科学およびその関連分野の成果の普及と後継者の育成, これらの分野の教育に関わる教職員への支援, 博物館や出版・報道機関などを通じての一般社会へのこれらの分野の成果の普及を目的として活動する。」

21. 博物館委員会報告(坂野委員長代理: 長瀬委員・理事)

坂野博物館委員会委員長代理で長瀬委員・理事により以下の通り報告がなされた。

IMA2018メルボルン大会期間中に開催されたIMA博物館委員会(IMA-CM)に長瀬委員が参加し, 投票により新委員長選出及びM&M9開催国(ブルガリア)の承認が行われた。2019年4月に

IMA-CMより連絡があり、情報共有のため重要事項を取り纏め各委員へ提供した。その概要は以下の通りです；1) CM Web siteの刷新, 2) 2020年7月開催のM&M9の情報, 3) IMA-CMより年4回の定期連絡メールの発信, 4) 今後のM&Mの開催方針の議論。

22. その他

辻森理事により、日本地質学会で辻森理事が中心になって制作した「一家に一枚ポスター：日本列島7億年」(本学会後援)の紹介があった。

11. 審議事項

第1号議案 新入会員承認の件(河上会員幹事・理事)

河上会員幹事により一般会員2名、学生会員3名(記載省略)の入会申込書が回覧され、異議なく入会が承認された。また、2018年5月第2回、8月第3回定例理事会で資格停止となっていた会員3名(記載省略)が未納会費を全納して停止が解除された事が報告され、承認された。

第2号議案 各賞選考委員会報告と審議(榎並会長)

(1) 日本鉱物科学会賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告 大和田委員長・理事)

日本鉱物科学会賞選考委員会大和田委員長により2018年度日本鉱物科学会賞第20回受賞候補者として野口高明会員、第21回受賞候補者として山崎大輔会員が報告され、受賞者として異議なく承認された。

なお、大和田選考委員長から以下の理由により「日本鉱物科学会賞受賞候補者募集推薦のお知らせ」に記載される推薦書の書式を統一し明文化することの提案があった。理由：推薦者が提出する受賞候補者の応募書類の内容と、推薦委員会委員が候補者を推薦した時の選考の方法を明確にするため。経緯：候補者の推薦書の書式を統一すると同時に推薦委員会が必要とした候補者の情報を網羅するため。推薦委員会の委員が候補者を推薦した時の投票方法を定めるため。この件、細則等検討委員会に諮問され、次々回の2019年度第1回理事会(9月開催)で答申することとなった。

2018年度日本鉱物科学会賞第20回受賞者氏名：野口高明会員
受賞業績題目：原始太陽系における物質進化に関わる岩石鉱物学的研究

2018年度日本鉱物科学会賞第21回受賞者氏名：山崎大輔会員
受賞業績題目：構成物質のレオロジーに基づく核・マントルのダイナミクスの研究とそのための高圧実験技術開発

(2) 渡邊萬次郎賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告 下林委員長)

渡邊萬次郎賞選考委員会下林委員長により2018年度渡邊萬次郎賞第35回受賞候補者として青木義和名誉会員が報告され、受賞者として異議なく承認された。

(3) 日本鉱物科学会論文賞選考委員会受賞論文候補報告と審議 (報告 河上委員長・理事)

日本鉱物科学会論文賞選考委員会河上委員長により以下の2編が2018年度日本鉱物科学会論文賞受賞論文候補として報告され、受賞論文として異議なく承認された。

2018年度日本鉱物科学会第20回論文賞受賞論文
受賞論文：Mullite in a buchite from Asama volcano and its sub-micrometric core-rim texture with sillimanite. JMPS, 113-4, 198-206, 2018.

Authors: Yohei IGAMI, Akira MIYAKE, Norimasa SHIMOBAYASHI

[受賞者となる会員著者] 伊神洋平会員、三宅亮会員、
下林典正会員

2018年度日本鉱物科学会第21回論文賞受賞論文
受賞論文 In situ observation, X-ray diffraction and Raman analyses of carbon minerals in ureilites: Origin and formation mechanisms of diamond in ureilites. JMPS, 111-4, 252-269, 2016.

Authors: Yoshihiro NAKAMUTA, Fumio KITAJIMA, Kazuhiko SHIMADA

[受賞者となる会員著者] 中牟田義博会員

(4) 日本鉱物科学会研究奨励賞受賞候補者報告と審議 (報告 奥村委員長代理代理：永眞真理子副委員長)

日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会奥村委員長代理の永眞真理子副委員長により、2018年度日本鉱物科学会研究奨励賞第25回受賞候補者として吉村俊平会員、第26回受賞候補者として篠崎彩子会員が報告され、受賞者として異議なく承認された。

日本鉱物科学会研究奨励賞第25回受賞者氏名：吉村俊平会員
受賞研究：火山噴火現象の実験的・理論的研究

日本鉱物科学会研究奨励賞第26回受賞者氏名：篠崎彩子会員
受賞研究：地球深部・氷天体深部での炭素、水素、窒素関連物質の振る舞いの解明

(5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告 門馬委員長)

応用鉱物科学賞選考委員会門馬委員長により締切日まで応募がなかったため、今年度の受賞候補者選考がなされなかったことが報告された。

(6) 櫻井賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告 松原委員長 代理宮脇理事)

櫻井賞選考委員会松原委員長 代理宮脇理事により今年度は該当者がなかったことが報告された。

(7) 2018年度JMPS学生論文賞受賞論文候補報告と審議 (報告 吉朝選考委員長・理事)

JMPS学生論文賞選考委員会吉朝委員長により2018年度JMPS学生論文賞受賞論文候補として以下の2編が報告され、受賞論文として異議なく承認された。

第7回受賞論文：Formation of Fe(III)-oxides on the magnetite surfaces in the low-temperature hydrothermal reaction
受賞者：Tomoya TAMURA (田村知也会員 投稿時：筑波大博3)

第8回受賞論文：Pressure-temperature-time path of a metapelite from Mefjell, Sør Rondane Mountains, East Antarctica
受賞者：Yumiko TSUBOKAWA
(坪川祐美子会員投稿時：横国大博2)

第3号議案 2019年度収支予算案の審議 (榎並会長、説明栗林会計幹事)

栗林会計幹事により、2019年度収支予算案が提示され、7月31日の決算前の予算であるため未定のところが多くなっているが、現時点では例年通りの予算案であるので、今回規定通り審議、承認をいただき、その後7月の決算後に補正予算を立て8月29日の第3回定例理事会に提出し最終承認を受ける説明がなされた。

審議の後、2019年度収支予算案は異議なく承認された。なお、予算は理事会承認事項であり、総会承認事項ではないが、総会では最終予算案を報告する。

第4号議案 役員への旅費支給答申結果について
(榎並会長：説明大和田細則等検幹事・理事)

報告事項13で報告した「細則等検討委員会からの答申結果」定年を迎えた理事への交通費の支給に関しては、ケースバイケースで対応する」について審議がなされ、答申は異議なく承認された。

第5号議案 研究発表優秀賞選考委員会交代委員の審議
(榎並会長・説明越後委員長)

越後研究発表優秀賞選考委員会委員長により、2018年9月21日14時会長報告後に任期満了となる委員5名：門馬綱一・坂巻竜也・三河内岳・三宅亮・斉藤哲の交代委員下記5名について提案があり、審議の後、下記新規委員5名は異議なく承認された。
新規委員5名(任期2020年9月会長報告まで)：

新名良介副委員長・亀井淳志・森下知晃・石橋秀巳・瀬戸雄介
現在継続委員5名(任期2019年9月会長報告まで)：
越後拓也委員長・境毅・辻森樹・長瀬敏郎・興野純

第6号議案 年会開催地の件
(磯部行事幹事、土屋2020LOC委員長 代理中村庶務幹事)

(1) 2020年年会開催地(東北大学)報告と審議
土屋LOC委員長代理中村庶務幹事により以下のような日本鉱物科学会2020年年会開催日程、会場案が説明され、審議の後、以下の実施案が異議なく承認された。

- 2020年日本鉱物科学会年会・総会 実施案
現地運営委員会委員長 土屋範芳
- 開催日時：2020年9月16日(水)、17日(木)、18日(金)、
(市民向け講座19日(土))
 - 開催場所：東北大学青葉山新キャンパス
(地下鉄東西線 青葉山駅下車徒歩3分圏内)
東北大学環境科学研究科並びに青葉山コモンズ、理学研究科現在押さえている教室の紹介があった。
懇親会場は、青葉山コモンズ内にある生協を想定(9/17)
 - 巡検等：巡検は予定していないが、今後希望等があれば柔軟に対応する。キャンパス内に次世代放射光施設の建設が進んでおり、躯体工事の見学が可能であれば対応する。

(2) 2021年年会開催地選定の件(磯部行事幹事)

磯部行事幹事により、2021年年会開催地について検討中であることが報告された。

第7号議案 年会での継続的な国石「ひすい」の普及講演会実施の件
(榎並会長)

榎並会長により、国石選定事業の一貫として昨年山形で開催した「ひすい」に関する一般普及講演は、山形大学LOCのご協力のお陰もあり大変好評であったことが報告され、今後、国石「ひすい」を一般にも広めるためにも、学会としてのアウトリーチの一つとして毎年年会で継続して「ひすい」に関する一般普及講演を行いたいと考えていることが紹介された。今年の九州大学、来年の東北大学でも開催が予定されているので、今後、正式に学会主催として開催してきたいとの提案がなされ、審議の後、正式学会主催とすることが異議なく承認された。

第8号議案 年会緊急対応について
(榎並会長・説明磯部行事幹事)

磯部行事幹事により、昨年2018年9月20日の第1回定例理事会で提案された「年会開催時の自然災害時の対応について」その後、検討してきた以下の具体的な対応案について説明がなされ、審議の後、緊急対応基本方針案は異議なく承認された。

なお、緊急対応基本方針の要検討事項のうち、特に「日程変更、代替日程による開催は原則として行わないとして良いか?」について審議がなされ、行わないことが、異議なく承認された。

【1】日本鉱物科学会年会における緊急対応基本方針(案)
本方針は、日本鉱物科学会年会開催にあたり、非常変災等への緊急対応についてその基本方針を定めるものである。

- LOCにおける事前情報収集(例)
屋内・屋外避難場所
気象警報等に対する開催校対応規定
公共交通機関の状況についての情報
会場費、懇親会費、巡検経費等についてのキャンセル時負担額
- 会期前における対応
 - 気象警報等の発令が予想される場合
必要に応じ、気象庁サイトにより開催地所在地域における気象警報発令状況および台風の進路等を確認する。
例：福岡市 https://www.jma.go.jp/jp/warn/f_4013000.html (福岡市) 気象警報・注意報(図表形式)当日・翌日の推移 警報級暴風等の見通し <https://www.jma.go.jp/jp/typh/storm-346.html> (福岡県) 台風の暴風域に入る確率(地域ごと時間変化)
 - 地震等発災の場合
LOCは、会場及び公共交通機関等の被害状況について情報を収集する。
 - 開催可否の検討
地震等が起こった場合、または、会期中に会場周辺に暴風警報等が発令される恐れがある場合は、開催の可否について検討する。判断は、LOCによる情報を元に、会長、LOC委員長、行事委員長の合議により決定する。
一般公開行事については、開始3時間前の時点で暴風警報等が発令されている場合は中止する。順延、日程変更等は行わない。判断に際しては、年会・総会、巡検、一般公開行事それぞれの参加者の安全確保を最優先として検討する。
判断結果は直ちにHP(学会トップページ)等にて告知する。警報等が解除され、安全が確保される見通しがある場合は、2日目以降からの開催を検討する。
日程延長、代替日程による開催は原則として行わない。
- 会期中の地震、火災、停電等への対応
 - 開催中の場合
参加者の安全確保を最優先とし、開催校の避難情報に従って対応する。
状況に応じ、中止を含め臨機応変に対処する。
プログラム打ち切りについては、LOCによる情報を元に、会長、LOC委員長、行事委員長の合議により判断する。
短時間の停電等の場合、座長、コンピーナー、LOC、行事幹事等の判断によりプログラムの繰り下げを検討する。
翌日以降への順延は行わない。
 - 開催時間外の場合
開催継続について可否を判断する。
LOCによる情報を元に、会長、LOC委員長、行事委員長の合議により判断する。
判断結果は直ちにHP(学会トップページ)等にて告知する。
- 開催中止となった場合の参加キャンセル、発表への対応
 - キャンセル者の支払い済み参加登録費、懇親会費及び巡検参加費について払い戻しはしない。
ただし、開催中止によるLOCの費用負担が発生しない場合は、送金費用等を除いた金額の返金を、事務作業量として可能な範囲で検討する。
 - 発表について
コンピーナーは、中止となったセッションでの発表について、発表者に取り下げの意思を確認する。

取り下げる場合:プログラムから削除し,要旨公開は行わない。
取り下げない場合:要旨を公開し,発表済みとして扱う。
開催地以外での災害等により不参加となった場合は,発表キャンセルとして扱う。

【2】日本鉱物科学学会年会における緊急対応基本方針(案)

要検討事項

- ・一般公開行事についての取扱は上記で良いか?
- ・開催中止等の周知方法はwebページだけで良いか?更新方法は?
他に適切な手段はあるか?電話窓口?
会期中の日程変更についての告知方法は?他に手段は?
- ・可能であれば,短縮日程での開催(例えば,二日目から)を目指すことを基本として良いか?
中止セッションの発表者については,できる限り会期中に発表の機会を設ける。
- ・日程変更,代替日程による開催は原則として行わないとして良いか?行わないことで承認された。
救済措置は必要ではないか?
要旨の公開のみで発表実績としてよいか?
- ・中止セッションでの発表
取り下げる場合 プログラムから削除し,要旨公開は行わない。
同内容を別途発表する場合,二重投稿とならずに済むようにする。
取り下げない場合 要旨を公開し,発表済みとして扱う。
参加費未納の場合は請求する?
- ・当日内のプログラム繰り下げは,最大2時間程度として良いか?

第9号議案 モンゴル資源地質学会と当学会の学術交流協定(MOU)更新の件 (榎並会長,説明2019年年会運営委員長小山内康人)

小山内2019年年会運営委員長により,2011年9月に調印がなされたモンゴル資源地質学会と当学会の学術交流協定(MOU)について,九州大学開催の2019年年会へのモンゴル資源地質学会研究者の多数の参加を機に,両学会で再検討及び再交渉してMOUを再更新し,新たなMOUを構築することを理事会でご検討いただきたくと提案の説明があった。審議の後,モンゴル資源地質学会とのMOU再更新は異議なく承認された。なお,調印式は2019年9月22日総会で執り行うこととなった。

<前回の経緯>

- ・2011年5月24日(火):平成22年度日本鉱物科学会第2回定例評議員会にてモンゴル資源地質学会との交流協定が了承された。
- ・2011年9月10日に茨城大学で開催された2011年年会総会において,モンゴル資源地質学会会長と当学会大谷会長が出席して学術交流協定調印(MOU)が行われた。

<前回の主な活動報告> <http://jams.la.coocan.jp/mongol.htm>に公開

- (1) 2011/9/10:2011年茨城大学年会講演会にてモンゴル資源地質学会共催トピックセッション「モンゴルおよび北東アジアの岩石。鉱物・資源」への2名による招待講演実施
- (2) 2012年06月24日-26日:第1回日本鉱物科学会とモンゴル資源地質学会との共同事業「鉱山巡検」参加人員:モンゴル12名(参加者は自費参加)案内者:日本鉱物科学会3名
- (3) 2012年9月3日~9月6日:第2回日本鉱物科学会・モンゴル資源地質学会合同現地地質見学会 参加者当学会6名 案内者:モンゴル3名。以上

第10号議案 「宝石切手」の発行の件 (榎並会長,説明宮脇副会長)

宮脇副会長により,「宝石切手」の発行に向けて,宝石学会日本,日本ジュエリー協会,日本宝石協会と連名にて発行の嘆願書を提出したいという令和元年5月15日付の文書について紹介があった。この提案を受け入れるかどうかと,承認された場合,渉外幹事が担当することについて,審議の後,提案は異議なく承認され

た。

第11号議案 日本地質学会提案「大規模研究計画に関するマスタープラン2020」への日本鉱物科学会賛同,共同提案の是非 (榎並会長 説明中村庶務幹事・理事)

中村庶務幹事により,一般社団法人日本地質学会小宮剛執行理事から,「大規模研究計画に関するマスタープラン2020」への日本鉱物科学会賛同,共同提案の依頼があったことが紹介され,賛同,共同提案するかどうかの是非について審議の後,異議なく提案が承認された。

第12号議案 International Symposium on Water-Rock Interaction (WRI) WRI-17東北大学招致協力の件 (土屋理事 代理:宮脇理事)

土屋理事代理宮脇理事により,WRI-17-2021から招致予定の連絡を受けたことが紹介され,もし万が一招致されたら当学会の協力が必要な場合があることから,当学会に協力依頼があった。協力の是非について審議の後,異議なく承認された。

第13号議案 YMO支援費用の件(YMO元代表・大藤理事)

大藤理事から,今年度のJpGUでのYMOの夜間集會会場費が,講師の都合で例年の会場34,560円の予約ができず,約2倍の使用料の会場62,640円を使用することになったが,例年通りの支援をお願いしたいとの提案があり,審議の後,支援に変更がないことが承認された。なお,来年以降は,JpGUでのYMOショートコースは開催しない予定との紹介があった。

第14号議案 感謝状授与の件(大藤広報委員長・理事)

大藤広報委員長により,「一家に1枚:鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスターのA2判1,000枚を学会にご寄付いただく奥山康子会員に,今までにない多額なご寄付に相当するので,感謝状を授与したいとの提案があり,審議の後,感謝状授与は異議なく承認された。

第15号議案 WEB会議を理事会以外の委員会にも利用する件とその費用 (中村庶務幹事・理事)

中村庶務幹事により,理事会以外の各委員会からWEB会議ZOOM利用可否の問い合わせがあったことを受け,学会費用でZOOMを必要な期間のみ1か月単位で契約することの提案がなされた。審議の後,各委員会のZOOM利用について承認された。なお,現在まで,理事会で使用していたZOOMは,中村庶務幹事契約の公費支払のZOOMを数回お借りしていたので,これを機に学会で契約することが明確になった。

第16号議案 2018年度応用鉱物科学賞の件 (宮脇理事 説明 門馬応用鉱物科学賞選考委員長)

門馬応用鉱物科学賞選考委員長により,今年度の「応募者なし」との報告について,今後選考委員会でなんらかの対応をしたいとのことから,再公募案とそのスケジュール案の提案がなされた。審議の後,例外措置は認められなく,今年度は再公募をしないで,来年の公募努力に期待したいとの意見から,提案は否決された。

第17号議案 第3回定例理事会,総会開催日の件 (中村庶務幹事・理事)

中村庶務幹事により,2019年9月21日の総会開催について審議する2018年度第3回定例理事会開催日案について,他の予定との

関係を調整するため、スケジュール表を提示して説明がなされた。(案1) 8月29日(木)と(案2)8月30日(金)の提案があり、審議の後、(案1)の8月29日(木)に2018年度第3回定例理事会の開催が承認された。

なお、中村庶務幹事からの連絡事項として、総会議事録には出席した役員の氏名を書くことが法令で定められていることから、各理事に9月21日の総会出席が依頼された。また2019年第1回理事会開催日は2019年9月22日16:30から九州大学開催の予定。

その他の議案

将来企画委員会への諮問の委員会答申について
(宮脇将来企画委員会委員長)

宮脇将来企画委員長により、報告事項12の将来企画委員会報告について、以下の議案として提案があった。

(1) 会計問題WG(仮称)委員についての審議

将来企画委員会で選任された、宮脇、鍵、大藤、永嶋を会計問題WG委員として選任することが異議なく承認された。その他、将来企画委員以外からの委員参加は、将来企画委員会に任せることとなり、まずは栗林会計幹事がWGに参加することが承認された。

(2) 科研費審査制度変更による学会の対応についての審議

当理事会において、データ収集はしないこと、会員に向けてのメリットを考え現在の学振への対応について会員へアドバイスを行う場、勉強会のようなセミナーを開催することが良いという意見が多々あり、9月の九州大学で開催可能かどうかも含め検討することが承認された。

【10】閉会

以上の議事を終え、19時00分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、出席した会長、副会長及び監事がこれに記名押印する。

2021年(令和3年)2月9日

会 長 榎並正樹 印

副会長 宮脇律郎 印

監 事 平島崇男 印

(配布時押印省略)